

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に基づく

中津市教育委員会施策の
点検・評価に関する報告書
(令和7年度対象)

令和8年8月17日
中津市教育委員会

目 次

I はじめに	1
1. 目的	1
2. 点検・評価の実施方法等	1
(1)法定事項	1
(2)実施方法	1
3. 自己評価及び総合評価の判定基準	2
(1)自己評価について	2
(2)総合評価について	2
II 点検・評価	3
1. 施策名と評価一覧	3
2. 評価の分析	5
3. 施策毎の目標、達成状況等	6
(1)表の見方	6
(2)各施策の内容	7
III 学識経験を有する者の知見	33
IV おわりに	44

I はじめに

1. 目的

平成19年6月に一部改正(平成20年4月1日施行)された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(昭和31年法律第162号)第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされました。

そこで、中津市教育委員会では、教育委員会が立てた基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかについて、教育委員会自らが事後にチェックし、今後の効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすため、この点検・評価を実施し、報告書にとりまとめました。

2. 点検・評価の実施方法等

(1)法定事項

点検・評価の実施については、次の4点が法定事項になっています。

- ①毎年実施すること。
- ②教育委員会の権限に属する事務(教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務を含む。)の管理・執行状況について点検・評価を行うこと。
- ③点検・評価の実施に当たっては、学識経験を有する者の知見の活用を図ること。
- ④点検・評価結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表を行うこと。

(2)実施方法

①対象期間

令和7年度の管理・執行状況

②点検・評価の項目について

中津市教育委員会では、市教育行政の長期的、総合的な指針として、「なかつ安心・元気・未来プラン2017(第五次中津市総合計画)」及び「第2期中津市教育振興基本計画」に基づき各種施策を推進しており、令和7年度は重点的な25項目について点検・評価を行いました。

③学識経験を有する者の知見の活用について

教育に関し学識経験を有する者の知見活用に当たっては、教育に関して公正な意見を述べるのが期待できる人の知見を活用しました。

④報告・公表方法

点検・評価結果に関する報告書は、定例市議会(教育厚生委員会)に提出し、その後、中津市教育委員会のホームページに公表します。

3. 自己評価及び総合評価の判定基準

(1) 自己評価について

事業主管課長が、適応性・効率性・達成度の3つの着眼点で、5段階で自己評価しました。

評価項目	着 眼 点
適応性	①市民ニーズや社会の変化に対応しているか
	②同じ目的を達成するために他に手段はないか
効率性	③内容の見直しや重点化を行っているか
	④事業の円滑な推進のための調整を行っているか
達成度	⑤当初の目標どおりに進めることができているか

【ランク説明】

ランク	着 眼 点
5	達成(80%以上)
4	着実に進捗(相当程度達成・79～60%)
3	やや不十分(59～40%)
2	不十分(39～20%)
1	抜本的見直しが必要(19～0%)

(2) 総合評価について

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価をしました。

ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本的見直しが必要

Ⅱ 点検・評価

以下に、令和7年度の具体的な施策内容、評価結果などについて報告します。

1. 施策名と評価一覧

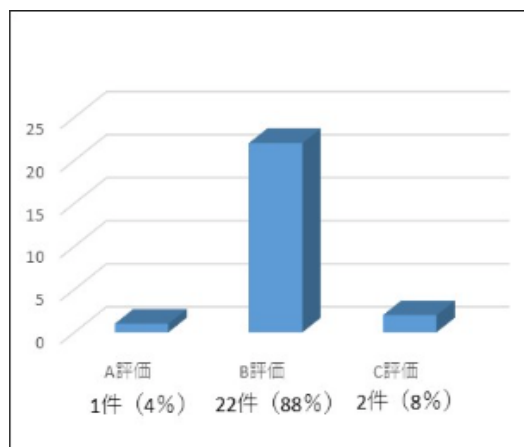
施策別 基本目標	基本姿勢	施策名		自己 評価	総合 評価	所管課
学びたい教育の まちづくり (学校教育)	小・中学校教育の充実	1	確かな学力の育成	3	C	学校教育課
		2	組織的ないじめ・不登校対策の推進	4	B	学校教育課
		3	新しい時代に必要な総合力の育成	3	C	学校教育課
		4	学校のあり方検討委員会	4	B	教育総務課
	幼児教育の充実	5	幼稚園教育内容の充実	4	B	学校教育課
	安心安全な学校施設の計画的整備促進	6	安心安全な学校施設の計画的整備	4	A	教育総務課
	学校給食の充実	7	安全・安心な給食提供のための環境整備及び地産地消の推進	4	B	体育・給食課
学びたい教育の まちづくり (生涯学習・産業教育の推進)	生涯学習の推進	8	生涯学習推進基盤の整備及び公民館、コミュニティーセンターの利用促進	3	B	社会教育課
		9	学習機会の拡充と学習効果の活用	3	B	社会教育課
		10	新中津市学校の活用	4	B	社会教育課
	教育の協働の推進	11	協育による中津の子ども未来創造事業の充実	3	B	社会教育課
	生涯学習センター「まなびん館」の充実	12	生涯学習センター事業の推進	4	B	社会教育課
	産業教育の推進	13	体験学習・遠隔講座等を通じた未来を広げるキャリア教育の推進	4	B	学校教育課
		14	多様な体験の場の活用	3	B	社会教育課
	図書館の充実	15	図書館機能の充実	3	B	小幡記念図書館
		16	読書活動の推進	4	B	小幡記念図書館

施策別 基本目標	基本姿勢	施策名		自己 評価	総合 評価	所管課
学びたい教育の まちづくり (文化・スポーツ の推進)	スポーツの振興	17	生涯スポーツの推進	3	B	体育・給食 課
		18	競技力向上及びジュニアの育成	3	B	体育・給食 課
		19	市民ニーズに応えるスポーツ施 設の整備や多機能多目的な施 設利用	3	B	体育・給食 課
	文化・芸術活動の推 進	20	文化施設の充実	4	B	社会教育課
		21	文化芸術活動の推進	4	B	社会教育課
	歴史と文化の伝承	22	文化財調査の充実と保護の促 進	4	B	社会教育課
		23	文化財整備・活用の推進	4	B	社会教育課
		24	博物館を核とした中津市の魅 力発信	4	B	社会教育課
学びたい教育の まちづくり (教育委員会活 動の充実)	教育委員会活動の 充実	25	教育委員会の機能強化	4	B	教育総務課

2. 評価の分析

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価したところ、A評価1件、B評価22件、C評価は2件となりました。

各課では教育の向上を図るために、高い意識を持って施策の目標設定を行っており、その達成に努めています。



ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本的見直しが必要

前年度(令和6年度)と比較すると、A評価は1件(前年度2件)、B評価は22件(前年度21件)、C評価は2件(前年度3件)となり、全体の9割を超える23項目の施策において優れた成果や進捗が得られました。コロナ禍以降における各種事業の本格的な展開や、市民による主体的な学習・スポーツ・文化活動の定着が着実に進み中で、各事業主管課が地域課題や時代の変化を見据えて設定した目標に基づき、年間を通じて継続的かつ確実な施策運営が展開された結果であると言えます。

A評価となった施策「安心安全な学校施設の計画的整備」では、「中津市学校施設長寿命化計画」の策定から5年目を迎えた計画の見直しを行い、南部小学校長寿命化改修事業や大幅幼稚園園舎改築事業等の大規模工事をはじめ、体育館や屋外トイレの洋式化改修事業を着実に実施しました。さらに、国の交付金を活用した屋内運動場空調設備整備事業を進めるなど、児童生徒の安全確保と教育環境の改善に向けた計画的な整備を推進しました。

一方、「確かな学力の育成」については、全国学力・学習状況調査において全国平均以上の学校数が小学校で13校と前年度(12校)より改善の傾向が見られたものの設定目標値(15校以上)には届かず、中学校においても目標達成校は2校となり十分な回復に至っていない現状から、今後も更に授業・補充学習・家庭学習の連動、AI型ドリルの活用、確かな学力向上週間の実施などにより、学力向上の取組を進める必要があるとしてC評価となりました。

また、「新しい時代に必要な総合力の育成」については、学校の壁を越えた遠隔学習やICT機器の活用、APU留学生との交流事業等を積極的に推進していますが、中学生の英検3級相当以上の取得割合(48.9%)が目標値(50%)に対してわずかに伸び悩むなど、基礎・基本の定着に向けた授業改善の一層の推進が求められるとしてC評価となりました。

その他の施策においても、来年度以降も引き続き各施策の目標を設定し、目標達成のために様々な取り組みを行ってまいります。

3. 施策毎の目標、達成状況等

(1)表の見方

表の項目について、大、中、小とありますが、これは、それぞれ大分類(施策別基本目標)、中分類(基本姿勢)、小分類(施策名)を指しています。

大 分 類		中 分 類	
1	学びたい教育のまちづくり (学校教育)	A	小・中学校教育の充実
		B	幼児教育の充実
		C	安心安全な学校施設の計画的整備促進
		D	学校給食の充実
2	学びたい教育のまちづくり (生涯学習・産業教育の推進)	E	生涯学習の推進
		F	教育の協働の推進
		G	生涯学習センター「学びん館」の充実
		H	産業教育の推進
		I	図書館の充実
3	学びたい教育のまちづくり (文化・スポーツの推進)	J	スポーツの振興
		K	文化・芸術活動の推進
		L	歴史と文化の伝承
4	学びたい教育のまちづくり (教育委員会活動の充実)	M	教育委員会活動の充実

(2)各施策の内容

N O	分 類			目 標
	大	中	小	
1	1	A	確かな学力 の育成	主体的な学びを通した言語能力の育成と、基礎力を向上させる取り組みの充実 ・全国学力学習状況調査において合計正答率が全国平均以上の学校数 「小学校15校以上」「中学校6校以上」 ・大分県調査において、合計正答率が全国平均以上の学校数 「小学校15校以上」「中学校6校以上」 ・中津市調査において、知識・活用で目標値以上の学年数が「10学年以上」 子どもの「情報活用能力」の向上と教職員の「ICT を活用した指導力」の向上 ○「みんな活躍授業」の推進と充実による授業の質の向上 ○問題解決型学習の充実による言語能力の育成 ○個別最適な学習の充実 ○教科の特質や学習内容に応じた iPad の積極的かつ 効果的活用 ○AI ドリルを活用した個別最適な学習の推進

達成状況	R6		R7		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○全国学力学習状況調査で全国平均以上の学校数(R7年度) 小学校6年生 (国語と算数の合計が全国平均以上の学校数 13校/21校) 中学校3年生 (国語と数学の合計が全国平均以上の学校数 2校/10校) ○中津市標準学力調査で基礎・活用で目標値以上の学年数 基礎 12学年(全20学年) 活用 10学年(全20学年) ○ICT活用教育の推進 授業で端末を児童生徒に活用させている頻度(学校における教育の情報化調査<大分県調査>より) 「ほぼ毎日」と回答した学校の割合 R5:30.3%→R6:61.6% 課題及び来年度に向けての方向性 ○「楽しくて力の付く授業づくり」をもとにした授業の充実 ・具体的な「子どもの姿」を想定した授業改善の推進 ・「みんな活躍」のための目的を明確にした手立ての工夫 ・単元を見通した学びの充実 ○情報活用能力の育成と個別最適な学習の充実 ・ICTを活用した情報活用能力の育成 ・学力調査の分析に基づく授業と家庭・補充学習との連動 ・AIドリルの活用	3	C	3	C	学校教育課

N O	分 類			目 標
	大	中	小	
2	1	A	組織的ないじめ・不登校対策の推進	全ての学校でいじめ・不登校等の問題に迅速かつ組織的に対応できる支援体制の強化 ・いじめ認知件数と解消率の増加 目標値 小学校82%以上 中学校76%以上 ・1000人当たりの不登校者数の減少と支援体制の充実 目標値 小学校20.2人以下 中学校52.9人以下 ①自己指導能力の育成を意識した教育活動の推進及び自治活動の充実 ②子ども理解のための家庭訪問等による日常的な家庭との連携 ③校内いじめ・不登校対策委員会を機能させた組織的対応の充実及び関係機関との連携強化 ④市教委連絡票を活用した早期解決支援及び学期始めの支援の取組充実 ⑤ICTの活用、教育支援センター「ふれあい学級」等との連携強化による不登校児童生徒への学習支援の拡充 ⑥「人間関係づくりプログラム」の継続的な実施による未然防止の取組充実

達成状況	R6		R7		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○いじめの認知件数及びいじめ解消率について (R6年度末)いじめの認知件数・・・1342件 いじめの解消率・・・70.1% (小70.9% 中65.3%) (R7年度末)いじめの認知件数・・・1301件 いじめの解消率・・・75.3% (小74.4% 中80.2%) ○不登校(不登校を理由に年間30日以上欠席)の児童生徒1000人当たりの不登校数について (R6年度末) 小学校24.0人 中学校52.9人 (R7年度末) 小学校21.3人 中学校55.2人 課題及び来年度に向けての方向性 ①自己指導能力の育成を意識した教育活動の推進及び自治活動の充実 ②子ども理解のための家庭訪問等による日常的な家庭との連携 ③「人間関係づくりプログラム」の継続的な実施による未然防止の取組充実 ④校内いじめ・不登校対策委員会を機能させた組織的対応の充実及び関係機関との連携強化 ⑤市教委連絡票を活用した早期解決支援及び学期始めの支援の取組充実 ⑥ICTの活用、教育支援センター「ふれあい学級」等との連携強化による不登校児童生徒への学習支援の拡充	4	B	4	B	学校教育課

N O	分 類			目 標
	大	中	小	
3	1	A	新しい時代に 必要な総合 力の育成	基礎力を向上させる取組の充実と英語に触れる・使う機会の創出 学校の壁を越えた学習の推進 ○1校1実践による授業改善に向けた組織的な取組 ○AIドリルQubenaの積極的活用 ○中津教育事務所管内3市の「垣根なき教育実践交流」 ○APU留学生との交流 ○ジュニアグローバルリーダー育成に向けた短期留学事業の実施 ○英語弁論大会、英語プレゼン大会の実施 ○学校の壁を越えた効果的な遠隔学習の実施
4	1	A	学校のあり 方検討委員 会	中津市学校のあり方検討委員会にて意見を集約し、教育委員会へ 報告する。 ○検討委員会を3回開催予定。 ○委員からの要望があれば、先進地を視察する。

達成状況	R6		R7		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○グローバル人材の育成 ・中学卒業時点での英検3級取得及び3級相当(CEFR-A1程度)の英語力を有する生徒の割合 48.9% ・ジュニアグローバルリーダー研修、APU天空祭体験ツアー等体験活動の実施 ○ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実による情報活用能力の育成 ・三津同盟による他県の小学生との交流:5校(小楠小、今津小、下郷小、津民小、鶴居小) ・中学校技術における遠隔プログラミング学習:3校(今津中、三光中、本耶馬溪中) ・小学校における遠隔プログラミング学習:1校(津民小) ・学校間連携による遠隔学習:深水小・城井小 課題及び来年度に向けての方向性 ○「まちなみ探検」などふるさと中津に学ぶ探究学習の実施 ○英語教育における組織的な取組を促す一校一実践と指導主事による巡回支援 ○英語コミュニケーション力の向上を目指す中津英語クラブの実施	3	C	3	C	学校教育課
○令和7年度において6回委員会を開催し、うち1回は国東市立志成学園及び豊後高田市立戴星学園において学校視察を行った。 ○令和7年11月13日に学校のあり方検討委員会委員長より報告書を受け、令和7年11月定例教育委員会においてその報告を行った。 課題及び来年度に向けての方向性 検討委員会からの報告を受け、今後は教育委員会としての学校のあり方の方針を策定し、実際に再編が考えられる地域等への説明会を行っていく。	3	C	4	B	教育総務課

N O	分 類			目 標
	大	中	小	
5	1	B	幼稚園教育内容の充実	幼小の円滑な接続に向けて、架け橋期のカリキュラムの実践と検証 ○校長研修会の開催 ○小学校における公開授業の実施 ○幼保小連携に係る研修会の実施 ○保育園(所)・幼稚園における公開保育の実施 ○幼保小連携協議会の開催
6	1	C	安心安全な学校施設の計画的整備	令和3年3月に策定した中津市学校施設長寿命化計画の方針に則り、老朽化対策及び教育環境の改善に努めるため、学校施設の長寿命化改修、予防改修、校舎建替、体育館・屋外トイレの洋式化改修等を行う。 省エネルギー化及び教育環境の向上を図るため、屋内運動場照明のLED化改修を継続して実施する。 中津市学校施設長寿命化計画の1回目の見直しを行う。 ○中津市学校施設長寿命化計画の計画的な実行と進捗管理を行う。 ○三保小学校校舎改築(Ⅰ期)工事、大幡幼稚園園舎改築(Ⅰ期)工事を実施する。 ○学校施設の長寿命化改修、予防改修、体育館・屋外トイレの洋式化改修を実施する。 屋外トイレ改修予定:鶴居小、如水小、秣小、上津小、城北中、東中津中、今津中 体育館トイレ改修予定:鶴居小、秣小、緑ヶ丘中 ○小・中学校の校屋内運動場照明LED化改修を実施する。 改修予定:鶴居小、如水小、和田小、深水小、真坂小、中津中、耶馬溪中

達成状況	R6		R7		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○幼小の円滑な接続のための相互参観・合同研修会を実施 ○校区幼保小連携協議会を設立 ○架け橋期のカリキュラムの確実な実施と見直しが必要(小1プロブレム発生率:R7年度3.5%) 課題及び来年度に向けての方向性 ○校区幼保小連携協議会運営の支援 ○幼保小連携協議会の開催(幼小の情報共有・引継ぎ) ○幼保小連携に係る研修会の実施(架け橋期のカリキュラムの検証・改善について) ○幼稚園におけるインクルーシブ教育推進モデル園(大幡幼稚園・鶴居幼稚園)の指定・支援	4	B	4	B	学校教育課
中津市学校施設長寿命化計画の1回目の見直しを行った。 令和7年度の事業について計画通り進んだ事業は、南部小学校長寿命化改修、大幡幼稚園園舎改築(Ⅰ期)工事及び体育館・屋外トイレの洋式化改修であった。三保小学校校舎改築(Ⅰ期)工事、小・中学校の校屋内運動場照明LED化改修については、例年4月に採択されていた国庫補助が令和7年12月に採択されたことにより、未契約繰越となり令和8年度に事業を行う事となった。 課題及び来年度に向けての方向性 ○国庫補助金等を最大限活用し、計画に沿った学校施設の長寿命化、予防改善、建替え等の整備を行う。 ○改修未実施の屋内運動場・屋外トイレの洋式化改修を計画的に実施する。(令和8年度は山口小学校、樋田小学校、上津小学校、城井小学校、今津中学校、本耶馬溪中学校のトイレを改修予定) ○教育環境向上を図るため、トイレの洋式化改修と並行して、学校施設の照明LED化改修を段階的に進めているが、改修率は令和7年度末で42%となっている。校舎の長寿命化改良工事や大規模改造に併せてLED改修を行うほか、屋内運動場のLED化改修を今後も計画的に実施する。(令和8年度は、屋内運動場(鶴居小学校、如水小学校、和田小学校、深水小学校、真坂小学校、中津中学校、耶馬溪中学校)の7校を改修予定) ○計画策定時点から、さらに老朽化が進んでいる施設や設備を見落とさないように注視することや、自然災害による損壊なども視野に入れ、実情に応じた計画の見直しを随時行っていく必要がある。	5	A	4	A	教育総務課

N O	分 類			目 標
	大	中	小	
7	1	D	安全・安心な給食提供のための環境整備及び地産地消の推進	新共同調理場整備運営事業者決定を行うとともに、新共同調理場における食物アレルギー対応の実施方針検討を行う。 JAや漁協、市の関係各課等と連携を密にして地場産野菜等の品目と使用量の拡大を図る。 新たな生産者組織や後継者の育成等を関係機関と協議する。 なかつ6次産業推奨品の活用に向け協議を行う。 ○新共同調理場事業者選定委員会を開催し、整備運営を行う事業者を決定する。 ○医師会や学校等の関係機関とアレルギー検討委員を開催し、新共同調理場における食物アレルギー対応方針の検討を行う。 ○地場産食材の利用拡大や生産者の育成等に向けて市関係部局とJA、漁協、生産者等の関係機関と協議を行う。 ○なかつ6次産業推奨品の活用に向け、市関係部局と連携し情報共有を行いながら、関係機関と各共同調理場との協議の場を設ける。 ○地場産食材を活用した新献立を継続して開発する。 ○地産地消献立を通じて、子どもたちに学習意欲や郷土関心を感じさせる工夫に努める。
8	2	E	生涯学習推進基盤の整備及び公民館、コミュニティセンターの利用促進	公民館、コミュニティセンターの利用促進。 自主サークル活動の育成。 公民館、コミュニティセンター等、社会教育施設の整備。 ○社会教育主事が各公民館を巡回し、利用者増加に向けて講座生や館長と対策を練る。 ○住民ニーズの把握と新規学習内容の開拓による魅力ある学習内容の提供と利用の啓発。 ○サークルの活動、募集の支援及び新規サークルの立ち上げ支援。 ○その他老朽化した公民館の設備等の改修。

達成状況	R6		R7		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○事業者選定委員会を開催し、2グループより提案書の提出及びプレゼンテーションが行われ、事業者決定をした。 ○食物アレルギーの実施方針については、6品目を対象に行うこととし、次年度マニュアル作成を行うこととした。 ○JAのみではなく、農家と直接交渉を行い、新たな生産者の確保に向けた協議を行った。 ○なかつ6次産業推奨品の活用に向け、新たな商品の学校給食への活用について、市関係部局と現場の栄養士と協議を行った。 課題及び来年度に向けての方向性 ○新共同調理場においてアレルギー対応食を提供する上で必要なマニュアルの作成を行う。 ○JAや漁協、市の関係各課等と連携を密にして地場産野菜等の品目と使用量の拡大を図る。 ○新たな生産者組織や後継者の育成等を関係機関と協議する。 ○九州中津逸品ものの活用に向け協議を行う。	4	B	4	B	体育・給食課
○前年度比較で利用実績が4911人増加。 ○小学生ダンスやフラダンスの自主サークル立ち上げを支援し、若い世代の新規利用を促進。 ○予算の範囲内で、施設の環境整備を計画的に推進。 課題及び来年度に向けての方向性 ○利用機会を広げ、市民が主体的に集える場を創出。 ○既存サークルの継続支援と、多世代による新規サークルの立ち上げを促進。 ○安心・安全に利用できる施設環境の維持・向上。	3	B	3	B	社会教育課

N O	分 類			目 標
	大	中	小	
9	2	E	学習機会の拡 充と学習効果 の活用	「学びの里なかつ推進宣言条例」に即した生涯学習の推進。 学びを通じた社会に貢献できる人材の育成。 「学びの里中津推進宣言条例」に即した「ふるさと学習」の推進。 ○学んだ成果を活かせる場を地域学校協同活動を中心につくっていく。 ○子どもたちが安全、安心に参加でき、体験活動を重視した「ふるさと学習」の実施。 (福沢諭吉記念事業、子ども中津検定・ジュニア諭吉検定、ワンパク！たんけん中津、青少年地域活動事業、八面山スケッチ大会・美術展、公民館独自講座 等) ○子ども中津検定・ジュニア諭吉検定サテライトを実施し、ふるさと学習推進のきっかけづくりをしていく。
10	2	E	新中津市学校の活用	市民講座の開催。 慶應義塾との共同研究の推進。 歴史資料の保存活用・公開。 ○慶應義塾等より講師を招聘し、市民講座を開催する。幅広い年齢層を対象に講座を行う。 ○「新中津市学校」を学びの拠点のひとつとして活用する。 ○慶應義塾大学との共同研究として「小幡篤次郎関係資料整理」「小幡著作整理作業」「渡辺家資料整理」を行う。 ○市民の利用促進へに向け、各種媒体を活用した広報活動、学校、各種団体への周知等を行う。

達成状況	R6		R7		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○生涯学習の生徒やサークル生が、学校支援や放課後子ども教室の講師として児童の健全育成に寄与。 ○「なかつ学びんぴっく」の受検者が前年度比36人増加。 ○鶴居小と三郷小をサテライト会場に指定し、受検環境を拡大。 課題及び来年度に向けての方向性 ○学校運営協議会等へ参画し、学校と地域が一体で児童育成を話し合う「熟議」の場を支援。 ○サテライト受検や公式ガイドブックの利用を促し、郷土の歴史・先人の教えに触れる機会を創出。	3	B	3	B	社会教育課
○令和7年度 利用者実績は9181人。(前年度比 ▲23.2%) ○慶應義塾等より講師を招聘し、市民講座(全2回)を開催。受講者はのべ78人。(前年度比 ±0) ○修繕が終了した小幡蔵書はなかはく「小幡篤次郎展」にて公開展示、渡辺家に関する資料については慶應義塾等と共同で調査研究を進めた。 課題及び来年度に向けての方向性 慶應義塾等より講師を招聘し、幅広い年齢層に向けた市民講座を開催する。 慶應義塾と連携し、福澤諭吉・小幡篤次郎関係資料、渡辺家関係資料調査を引き続き実施する。 歴史博物館や福澤記念館での資料の展示や企画展の開催により、調査研究成果を市民へ公開、還元する。	4	B	4	B	社会教育課

N O	分 類			目 標
	大	中	小	
11	2	F	協育による中津の子ども未来創造事業の充実	コミュニティスクール導入校における効果的なネットワーク会議との連携促進。 感染症予防対策をとりながら、地域と学校の協働により、学校内外での子どもの育成を推進。 中津市PTA連合会と連携し「家庭教育ノススメ」を重要な目標の一つに位置付け、よりよい親子関係が築けるようにする。 ○コミュニティスクールを推進する中で、従来の校区ネットワーク会議との効果的な連携の方策を、協育コーディネーターを介して把握し、学校運営協議会と校区ネットワーク会議の効果的な連携のしくみを構築していく。 ○月1回の協育コーディネーター会議において情報交換を行う、地域の学校支援者の人材バンクを構築する、また協育コーディネーター同士で人材バンクの共有を図る等してスムーズな学校支援が実施できるようにしていく。 ○支援者や学校、児童クラブと十分に連携を図り、子どもたちの安全、安心を確保しつつ、学校支援活動、学習支援活動、放課後や週末の体験活動の充実を図る。 ○協育フォーラムにおいて中津市内の小・中学校同士で実践事例を通して学び合うとともに、学校運営協議会での熟議の仕方について工夫し、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒の課題の解決に向けて協働を図る。
12	2	G	生涯学習センター事業の推進	感染症予防対策、治療体制も整う中、生涯学習を推進し、学ぶ意欲を持った市民に対して、個々の学びが自分の生きがいにつながるような施設づくりをすすめる。 学びから遠ざかっている市民、学ぶ場を知らない市民に対しては、積極的に情報発信を行い、学びを再開、スタートさせるきっかけをつくり、市民の学びを後押しする。 ○「まなびん講座」の受講者の確保のための魅力ある新規講座を開設。 ○中津市生涯学習大学の周知と新規受講者の確保。 ○サークル活動の活性化。 ○ニーズの把握による運営の見直し。 ○学習しやすい施設、設備の充実と日常の安全、安心な環境整備。 ○まなびんフェスティバルと中津市生涯学習大学祭を合同開催することで、若年層と高齢者層の学びを互いに知ることを促進し、相互の学びを活性化。

達成状況	R6		R7		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○館長会議にて、CS(コミュニティースクール)確立に向けた地域学校協働活動の研修を毎月実施。 ○放課後子ども教室の充実へ向け、各校区のコーディネーターを伴走支援。 ○市PTA連合会と連携し、「ほめて、認めて、はげます」コミュニケーション運動を推進。 課題及び来年度に向けての方向性 ○学校運営協議会の中で、コーディネーター(館長)に明確な役割を担わせ、連携の主軸とする。 ○各校区のコーディネーターの願いや思いを丁寧に傾聴・反映し、放課後子ども教室を充実。 ○県PTA研修大会(中津市大会)にて、市PTAと協働するアップデート版「家庭教育ノススメ」の取り組みを発表できるよう全面支援。	3	B	3	B	社会教育課
○「まなびん講座」の新規開設やサークル活動等を通じ、生涯学習センターの利用促進を推進。 ○センターだよりやSNSを効果的に活用し、日頃の取り組みを広く発信。 ○「まなびんフェスティバル」と「生涯学習大学祭」を合同開催し、若年層と高齢者層の相互の学びを活性化。 課題及び来年度に向けての方向性 ○魅力ある新規講座「まなびんびん講座」を開設し、新たな受講者層を開拓。 ○サークル活動をより促すため、施設利用ルールや活用方法を見直し。 ○「まなびんフェスティバル」と「生涯学習大学」の両イベントの合同開催を継続し、世代を超えた相互学習をさらに推進。	4	B	4	B	社会教育課

N O	分 類			目 標
	大	中	小	
13	2	H	体験学習・遠隔講座等を通じた未来を広げるキャリア教育の推進	職場訪問・職場体験の充実 オンライン講座等を通じた未来を広げるキャリア教育の推進 ICTを活用したキャリア教育の充実 ○関係団体との積極的な連携 ○中学校における横のつながりの充実
14	2	H	多様な体験の場の活用	子どもたちが、勤労の尊さや生産の喜びを体得し、自分の将来を考える時に選択の幅が広がるような学校以外での多様な体験の場の提供。 ○「職人フェスティバル」の実施。 ○少年少女発明クラブの充実。 ○なかつの子どもネイチャーと親子ふれあい創作活動の要素をワンパク！たんけん中津に加えることで、ワンパク！たんけん中津のプログラムを強化し、多様な体験学習の場の充実を図る。

達成状況	R6		R7		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
小学校対象 ・ダイハツ工場見学19校(5年生が在籍する学校全て) ・ダイハツものづくり出前教室9校 ・工科短大と商工会議所と連携した「ものづくり体験出前授業」9校 中学校対象 ・職場体験実施校10校(全ての学校) ・職場訪問実施校6校 市内全中学校でオンラインによる「中学校生徒会意見交換会(SOEM)」の実施	4	B	4	B	学校教育課
課題及び来年度に向けての方向性 ○関係団体との積極的な連携 ○中学校における横のつながりを充実させ、学校生活の向上を図るSOEMの実施 ○「学びの里なかつ」キャリア教育において、本耶馬溪・耶馬溪・山国地区での小・中・高の連携を推進					
○「職人フェスティバル」の伴走支援を行い、ドローンやペッパーくんなどの先端技術や小幡英之助や田原淳などの中津の医学者を取り上げたブースを展開。 ○中津少年少女発明クラブから、大分県発明工夫展3名が上位賞(会長奨励賞・大分合同新聞社賞・県会長賞)を受賞。 ○「ワンパク！たんけん中津」にて、飯盒炊爨や手作り花火の体験学習を実施。					
課題及び来年度に向けての方向性 ○「職人フェスティバル」を支援し、地域産業との接点を創出。 ○中津少年少女発明クラブの活動を通じ、創造的な喜びと試行錯誤を尊ぶ態度を育成。 ○「わんぱく！たんけん中津」の体験プログラムを拡充し、子どもたちへ多様な学びを提供。	3	B	3	B	社会教育課

N O	分 類			目 標
	大	中	小	
15	2	I	図書館機能の 充実	安心して来館できる環境づくり 市民ニーズに沿った図書館運営と利用率の向上 社会教育課などと連携し、近隣文化施設との導線づくりを図る。 ○施設や設備の経年劣化箇所の修繕や更新を実施し、利用者の安全性や快適性を確保する。 ○図書館DX を積極的に推進、また継続して実施する。 ○図書館講座や図書館コンサート等のイベントを通して、図書館の新規利用者の獲得を図る。 ○中津市歴史博物館や木村記念美術館の特別展示のテーマに関連した図書を展示し、施設の相互利用や読書の推進を図る。 ○エントランス壁面をアートスペースとして美術館に提供し、利用者が美術館に興味を持つきっかけをつくる。
16	2	I	読書活動の推 進	家庭や地域、図書館における子ども読書活動の推進。 学校図書館やボランティアグループなどとの連携による読書活動の推進。 イベント等を通して本の魅力、読書の楽しさを伝える。 ホームページのリニューアル等により図書館の取組みの積極的かつ効果的な情報発信をおこなう。 ○おはなし会や赤ちゃん絵本事業を通じて乳幼児期から絵本に触れる機会を提供し、習慣づけることで読書活動を推進する。 ○学校司書や読み聞かせボランティアと連携を密にし、子どもの読書活動の推進を図る。 ○読書週間等の読書イベント・図書館講座等で関連図書を展示、紹介することにより読書活動を推進する。 ○HPや図書館だよりなどで、イベント情報、新刊案内など読書推進に関する情報発信を行う。 ○第2次計画の進捗や課題を踏まえて第3次計画を策定し、子どもの読書活動を推進する。

達成状況	R6		R7		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○小幡記念図書館(築32年)の屋上防水工事や、非常放送設備・警報盤の更新等施設の修繕を行った。 ○子ども司書が主体となって企画するイベント(子ども読書サミット)の開催により、人気絵本作家によるライブペイントを実施し、新たな来館者の獲得を図った。また当作家による絵本の原画展を美術館と連携して企画することにより、施設の相互利用による図書館利用者の増加に取り組んだ。 課題及び来年度に向けての方向性 ○施設の老朽化が進んでいるため、計画的に修繕を行いながら長寿命化を図る必要がある。また、利用者のニーズが変化している現状を踏まえ、利用者が快適に過ごせるよう施設内の配置や利用規程の見直しに取り組む必要がある。 ○次年度の図書館システム更新に併せ、図書館HPの改善とともに、非来館型サービスへ向けて図書館DXの推進を図る必要がある。	4	B	3	B	小幡記念図書館
○毎週月曜日の幼児向けおはなし会のうち、日曜おはなし会の割合を増加することにより、平日に参加できない方にも読み聞かせの機会を提供し、読書活動を推進した。 ○学校司書と合同で、児童サービス分野の専門家を講師に迎え研修会を実施したり、初任者研修を行ったことにより、学校図書館との連携を深めることができた。 ○第3次計画に基づき年度ごとの目標に対する実績を把握することにより、保育施設の現場からあがった課題に対し、読書活動の推進に効向けての効果的な取り組みができた。 課題及び来年度に向けての方向性 ○読書活動推進のための様々な事業やイベント等を実施しているが、十分周知できていない現状があり、今後効果的な情報発信の方法を検討する必要がある。 ○現行の図書館HPではサイト内検索がしづらいつくりになっているため、早急にリニューアルを行う必要がある。	4	B	4	B	小幡記念図書館

N O	分 類			目 標
	大	中	小	
17	3	J	生涯スポーツの推進	大人から子供まで加入することができ、色々なスポーツを選べる総合型地域スポーツクラブの創設に向けて取り組む。 様々なスポーツイベントを開催し、スポーツに触れあえる機会を増やす。 定住圏域住民のスポーツ振興を図る。 ○5月の最終水曜日を「健康づくりの日」として施設の開放を行い、市民の健康づくりをサポートする。 ○市内の体育施設を利用して、様々なスポーツ大会や各カテゴリーの大会を誘致し、誰もが身近にスポーツと接する機会を増やす。 ○定住圏域住民を含め広く誰もが参加できるスポーツイベントを開催する。
18	3	J	競技力向上及びジュニアの育成	市スポーツ協会や競技団体、学校、地域、企業などが連携し、人材の育成・強化に努める。 ○競技力の向上及び優秀な選手やジュニアの育成のために、優れた指導者の確保や育成が必要であり、全ての競技団体に「公認スポーツ指導者」や「スタートコーチ」、「スポーツコーチングリーダー」等の資格取得を支援・推進していく。
19	3	J	市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用	市民のスポーツニーズに対応した施設の整備を行うことで、施設利用満足度を高める。 多機能多目的な施設利用に柔軟に対応し、利便性の向上を図る。 ○誰もが、どこでも、安全に、安心してスポーツに親しむことのできる環境づくりを計画して行く。 ○市民要望の高い種目や競技に対応する施設整備及び、多機能多目的な施設利用対してのルール作り等を行っていく。

達成状況	R6		R7		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
5月の最終水曜日を「健康づくりの日」として施設の開放を行い、スポーツに触れ合える機会を増やし、施設利用の促進に繋げることができた。 慶應義塾大学体育会野球部に加え、今年は東京医療保健大学女子バスケットボール部も中津市での合宿を受け入れすることができた。 慶應義塾大学野球部の合宿においては、期間中に地元小中学生対象の野球教室や九州共立大学、日産自動車九州との交流試合も行われた。 課題及び来年度に向けての方向性 今後も様々なスポーツイベントを開催し、スポーツに触れ合える機会を増やす。	3	B	3	B	体育・給食課
スポーツ少年団の説明会において、指導者資格の説明を行い、制度への理解と資格取得、更新の手続き等を促した。 10月には「地域内指導者スタッフ研修会」を行い、子どもたちにとってより良いスポーツ環境を提供できるよう啓発を行った。 課題及び来年度に向けての方向性 ○競技団体には、最新の指導方法や考え方などを学ぶ機会として指導者資格の取得と定期的な講習を受講するように促す。	3	B	3	B	体育・給食課
利用者ニーズを踏まえ、施設整備や施設の利便性向上のための改修や修繕を実施した。 三光運動公園のサブグラウンド内にあるトイレの洋式化工事を行った。 ダイハツ九州スタジアムの鉄柱塗装工事を行った。 課題及び来年度に向けての方向性 ○誰もが、「どこでも、安全に、安心して」スポーツに親しむことのできる環境づくりを行っていく ○市民のスポーツニーズに沿った市の振興につながるような施設にすべく整備を行っていく ○将来の財政負担や利用見込みなど総合的要素を勘案した施設となるよう検討していく	3	B	3	B	体育・給食課

N O	分 類			目 標
	大	中	小	
20	3	K	文化施設の充実	市民生活の質を高め、楽しめる文化的環境づくりを推進。 文化芸術活動の場としての施設の整備・充実に努める。 ○子どもから高齢者まで全ての市民が、鑑賞や自らの発表の場として文化施設を活用できるよう、施設の充実、利用機会の拡充に努める。 ○建設後45年経過(昭和54年竣工)している中津文化会館について、市民が安全にかつ快適に施設を利用できるよう、老朽箇所等について必要な改修等を行う。また、将来的な方針(建て替え・長寿命化)決定に向けた議論を進める。
21	3	K	文化芸術活動の推進	市民ニーズを反映した文化芸術の取り組みを行うとともに、文化芸術団体との連携を強化する。 各施設においては、多様な文化・芸術活動を展開しているが、より多くの市民が、質の高い芸術文化に親しむ場、また自らの活動の発表の場としても利用できるよう、情報の発信と活動の充実に努める。 ○文化会館、リル・ドリームについては昨年度と同様に、指定管理者に「市民ニーズの把握とイベントの検証による事業の発展」「収益率と使用率の向上」「職員の育成、組織力強化」「安心・元気・未来プランの推進」を条件に附しており、市も協力して取り組む。 ○木村記念美術館については、これまでの取り組みを継続するとともに、中津市歴史博物館と連携し合同企画展等を実施するなど、事業のさらなる充実強化を図る。 ○市報やHP、ラジオ等、あらゆる媒体を利用して、中津市の文化・芸術活動の情報発信を行う。

達成状況	R6		R7		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
文化会館については、必要な設備修繕を行い、幅広い年齢の利用者が安心して快適に利用できるよう整備に努めた。 (空調機器修繕、音響設備修繕、屋外床タイル修繕、排煙設備修繕、排水設備修繕など実施) 課題及び来年度に向けての方向性 文化会館、木村記念美術館、リル・ドリームも含め、全ての関連施設において、市民が文化芸術に親しみ、発表の場として活用できるよう、施設の維持管理および充実に努める。 ○文化会館、リル・ドリームについては、修繕等の必要性や優先度を十分に検討し修繕計画を立て、適正な対応を行っていく。 ○文化会館は築45年経過しており、老朽化により多額の改修が必要とされている。修繕計画を立てていても突発的かつ緊急を要する対応が生じる恐れがある。 ○Wi-Fi環境の整備について利用者からの要望が上がってきている。なぜWi-Fi環境必要なのか調査し、必要性がある場合に全館対応は無理だとして、どういう対応が取れるのか検討していく。	4	B	4	B	社会教育課
文化会館、リル・ドリームについては、指定管理者が中心となり文化芸術団体と連携を深め、市民が文化芸術に触れ体験する機会を創出した。施設利用者数については、文化会館では前年実績から減少したものの、リル・ドリームでは増加した。 木村記念美術館については、歴史博物館や美術団体との連携により美術展等開催した。施設利用者数は前年実績と同程度となっている。 課題及び来年度に向けての方向性 ○文化芸術の関連団体等との連携を深め、市民が文化芸術に触れ、体験する機会の創出に努める。 ○「学びの里なかつ」の推進を図るため、「いつでも・どこでも・だれでも学べる場の提供」を意識して企画展示や広報に取り組む。 ○市民特に次世代を担う若年層が自身の文化・芸術活動を発表する場として施設利用してもらうための情報発信を強化していく。 ○木村記念美術館については、歴史博物館及び美術団体との連携を更に強化し、利用者の周遊性を高め、美術・歴史に触れる機会を提供する。	4	B	4	B	社会教育課

N O	分 類			目 標
	大	中	小	
22	3	L	文化財調査の 充実と保護の 促進	有形・無形・埋蔵文化財の調査・実態把握につとめる。 文化財保護の活動に市民の巻き込みをはかる。 分散している民具・埋蔵文化財の収蔵環境の改善と施設の集約を進める。 歴史遺産を未来へ伝えるため、市が目指す将来的なビジョンや具体的な事業等の今後9年間の実施計画を定めた「文化財保存地域計画」に則り事業を進める。 ○文化財の調査・研究を行い、調査成果を博物館企画展や調査報告書の刊行に活かす。 ○学校教育との連携や博物館活動、史跡整備等の機会を活かして、文化財保護精神の醸成を促す活動を行う。 ○民具の集約に向け、整理を行う。 ○「文化財保存活用地域計画」に記載された課題等の優先順位を検討、割り振りし、取り組みを進める。
23	3	L	文化財整備・ 活用の推進	各種文化財の整備活用を通して地域への誇りと愛着を育てる。 文化財の公開・活用・情報発信に努め、文化財の価値の周知をはかる。 ○福沢諭吉旧居の修復・保存のため、「福沢諭吉旧居基本整備計画」の令和8年度策定を目指し、建造物の調査等を実施する。 ○永添相原地区に残る古代ゾーンの核として、長者屋敷官衙遺跡の隣地の公有化等のⅡ期整備を進める。 ○慶應義塾大学と連携した中津の偉人の調査をはじめ、各分野の調査研究の成果を、刊行物や展示、講座等を通じて、市民に還元する。 ○SNSやメディアを積極的に活用する。

達成状況	R6		R7		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○県指定史跡長岩城の初めての発掘調査を行うなど総合調査をすすめ、調査の成果報告などについてのシンポジウムを開催した。また、調査・研究の成果を活かした企画展を開催し、ギャラリートーク等を実施した。「御水道展」では「大人の社会見学in三口浄水場」や記念講演会を開催し、現在まで中津市の水道史を紹介した。図録や調査報告書等は13冊を刊行。 ○中津の文化財を描いた作品展や「とうろう展」を実施するとともに、博物館見学、体験講座、修学旅行、職場体験等の受け入れや出前授業等を行い市内外の学校と連携を深めた。小学生などを対象に、沖代条里土水路希少生物調査や縄文体験学習会を開催した。「戦争の記憶展」では戦争の記憶を若い世代に伝えるため、市内の高校放送部の生徒に手記の朗読音声作成に協力を依頼した。また、文化の日特別企画「なかはくバックヤードツアー！」などのイベントを開催した。 ○民具については整理と写真撮影等の確認調査を実施した。 ○国史跡長者屋敷官衙遺跡や福沢諭吉旧居の整備や文化財看板の老朽化に伴う修繕を行うなど「文化財保存活用地域計画」に記載されている様々な課題に取り組んだ。 課題及び来年度に向けての方向性 文化財の適切な保存や魅力的な活用のため、引き続き各分野の調査研究、及び文化財の保護に取り組むとともに、文化財保護精神の醸成を促す活動を行う。 学校部活動の地域展開事業と連携し、中津市の文化財を未来へ継承するための取り組みを進める。	4	B	4	B	社会教育課
○福沢諭吉旧居基本整備計画のR8年度策定をめざし、史跡内の地質調査や建造物の耐震診断を実施し、補強案等を検討した。 ○長者屋敷官衙遺跡については、トイレや駐車場のための用地を取得し、「古代ゾーン」の拠点としての整備を進め、周辺調査を継続実施した。 ○長岩城シンポジウムを開催し、調査報告を市民に公開することができた。 ○慶應義塾大学と連携して特別展「知徳の人・小幡篤次郎」「高橋誠一郎と浮世絵－コレクターのまなざし－」を開催した。また、企画展示に関連したギャラリートーク、ワークショップ、記念講演、市民講座の開催など、これまでの共同研究の成果を活かした企画を多数実施した。 ○企画展、イベントごとにSNSで発信し、テレビ、FM放送、新聞などを積極的に活用して周知を行った。 課題及び来年度に向けての方向性 福沢諭吉旧居の修復・保存のため、「福沢諭吉旧居基本整備計画」の令和8年度策定を目指す。 永添相原地区に残る古代ゾーンの核として、長者屋敷官衙遺跡のトイレや駐車場の建設を進める。 名勝耶馬溪の再評価について検討する必要がある。	4	B	4	B	社会教育課

N O	分 類			目 標
	大	中	小	
24	3	L	博物館を核とした中津市の魅力発信	資料収集とともに適切な保存を行う。 「学びの里なかつ」を推進し、多彩な企画展や、事業を開催する。 観光部局や市内各館との連携を強化し、魅力発信を行う。 民間が運営に参加する参加型なかはくを目指す。 ○資料の収集と保管、データベース化の推進。 ○調査成果を基にした魅力的な企画展を開催する。 ○学校教育との連携強化。 ○観光部局と連携して、情報発信や「三津同盟」事業を推進する。 ○民間が主催者側にたつ企画開催を推進する。
25	4	M	教育委員会の機能強化	市長部局との連携強化を引き続き行う 教育現場の実態把握と関係機関との意見交換を行う 教育委員の視察、研修機会の拡充 ○総合教育会議などの市長と教育委員会が連携を図れる会議等を開催する。 ○学校現場を訪問するなどして、県等関係機関と教育行政についての意見交換を行う。 ○先進地視察など教育委員の研修機会の拡充に努め教育行政について研鑽を重ねる。

達成状況	R6		R7		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○市指定40周年記念「御水道展」、小幡篤次郎の業績を多角的に紹介した「知徳の人・小幡篤次郎」展、福澤門下生として慶應義塾に学んだ高橋誠一郎の浮世絵コレクションを紹介した「高橋誠一郎と浮世絵」展、「国立印刷局工芸展」など、バラエティーに富んだ企画展示を行った。企画展に関連したギャラリートーク、ワークショップ、講演会、イベントの開催なども多数実施した。 ○学校教育課と連携し、社会見学やまちなみ歴史探検等の博物館の見学、出前授業、体験学習、職場体験等の受け入れを行った。 ○三津同盟事業は、令和8年度の締結5周年記念行事に向け、3市町で交流・調整を行った。 ○お茶会、Xmasマルシェ、手作りワークショップ、お祭り展示など、市民主催の事業を開催した。 ○美術館では、「よしながこうたく絵本原画展」を開催し、子ども司書研修を受講した小学生が絵本の読み聞かせを行った。また、武田由平をテーマとした企画展を開催し、市民団体と連携してカフェや郵便局等市内46か所で武田由平の作品を展示するまちなかアートプロジェクトや主要展示会場を巡る「名建築と版画をめぐるバスツアー」を実施した。 課題及び来年度に向けての方向性 「学びの里なかつ」を推進し、多彩な企画展や事業を開催する。 観光部局との連携して三津同盟締結5周年事業の準備をすすめる。 博物館、図書館、美術館で連携し、歴史と文化の拠点としての機能を強化する。	4	B	4	B	社会教育課
○令和8年3月23日(月)に総合教育会議を開催し、協議を行った。 ○令和7年6月27日～7月10日にかけて4日間(前期)、令和7年10月30日～11月20日にかけて4日間(後期)の日程で各小・中学校、学校支援センター及び幼稚園への訪問を実施した。 課題及び来年度に向けての方向性 ○総合教育会議では、教育現場における喫緊の課題や、取り組みの成果など、様々な議題について協議や情報共有を行っていく。市長部局と教育委員会が共通の認識を持てるように連携を図ることで、課題に対して迅速な対応が出来る体制を構築していく。 ○今後も学校訪問を実施し、教育現場を取り巻く問題や課題を認識することで、教育行政の推進につなげていく。	4	B	4	B	教育総務課

Ⅲ 学識経験を有する者の知見

大分大学教育学部 教授 住岡 敏弘

まず、報告書から読み取れる限りにおいて、各施策の達成状況について所見を述べます。

1. 学びたい教育のまちづくり(学校教育)

A 小・中学校教育の充実

・確かな学力の育成

今年度の目標は、「主体的な学びを通した言語能力の育成と、基礎力を向上させる取り組みの充実」と「子どもの『情報活用能力』の向上と教職員の『ICTを活用した指導力』の向上」の2点が掲げられています。一つ目の目標の具体的な数値目標として、「全国学力学習状況調査において合計正答率が全国平均以上の学校数として「小学校15校以上」「中学校6校以上」、中津市調査において、知識・活用で目標値以上の学年数が「10学年以上」を設定しています。さらに、達成状況をみると、一つ目の目標については、全国学力学習状況調査においては、全国平均以上の学校数は、小学校は13校、中学校は2校でした。小学校は、令和6年度より増加したものの、中学校は令和6年度の4校には及びませんでした。中津市調査については、基礎で12学年、活用で10学年と目標を達成しています。目標値を超えた学年が10学年で、達成をしています。二つ目の目標については、授業で端末を児童生徒に活用させている頻度について「ほぼ毎日」と回答した学校の割合が令和5年の30.3%から令和6年の61.6%に向上しています。

これをみると、昨年度に続き、小学校、中学校とも全国学力学習状況調査の目標に届かなかったことは課題といえるでしょう。この背景には、いまだ、基礎的・基本的な知識・技能の定着が十分になされていないといえます。ただ、教科によっては、C層の児童生徒の割合が減少しているとの指摘もあり、改善のきざしも見えています。今後も、「みんな活躍授業」を通じた授業改善を進めるとともに、授業・補充学習・家庭学習の連動、AI型ドリルの活用、確かな学力向上週間の実施などにより、学力向上の取組を進めていただきたいと思います。

・組織的ないじめ・不登校対策の推進

令和7年度もいじめの認知件数は、1,300件を超え、いじめに対する認知が積極的になされていることがわかります。いじめの解消率も、小学校74.4%、中学校80.2%と前年をかなり上回りつつも、小学校については目標を達成することができていません。この背景として、いじめ認知が年度末に集中したことが挙げられています。今後、学校内の組織的な対応や他機関との連携をさらに進めて、目標達成に努めていただきたいと思います。

一方で、不登校の児童生徒1,000人当たりの不登校数については、小学校は、令和6年度の24.0人から21.3人に微減し、中学校は52.9人から55.2人に微増しています。特に小学校は令和4年度の9.8人から令和5年度は22.8人に大きく増加して以降横ばいが続いています。不登校の原因は多様化複合化しています。教育支援センターふれあい学級との連携強化はもちろん、校内指導体制を充実するとともに、人間関係プログラムなどを拡充し、不登校支援ルームの活用を進めるなど、不登校の未然予防にも取り組んでいただき、児童生徒の居

場所づくり、学習機会の確保に取り組んでいただきたいと思います。

・新しい時代に必要な総合力の育成

この項目の令和7年度の目標は、「基礎力を向上させる取組の充実と英語に触れる・使う機会の創出」と「学校の壁を越えた学習の推進」の2点が設定されています。前者の目標については、ジュニアグローバルリーダー研修、APU天空祭体験ツアー等体験活動が実施され、中学卒業時点での英検3級取得及び3級相当(CEFR-A1程度)の英語力を有する生徒の割合が48.9%であり、前年比0.1%増と微増に留まっています。後者の目標については、三津同盟による他県の小学生との交流を5つの小学校で行い、3校の中学校と1校の小学校で遠隔プログラミング学習が実施され、深水小と城井小で学校間連携による遠隔学習が行われるなど、学校の壁を越えた効果的な遠隔学習が実施されています。児童生徒数の減少が進む中で、学習効果をあげていく上で、今後も遠隔学習を拡充することは望ましいといえます。

・学校のあり方検討委員会

小・中学校において一定の集団規模が確保されていることは、児童生徒の成長や適正な学習環境を考える上で不可欠です。そこで、教育的な視点から少子化に対応した学校づくりのための方策を検討・実施するために、「中津市学校のあり方検討委員会」において、令和7年度は、検討委員会を3回開催し、委員から要望があれば先進地を視察し、意見を集約し、教育委員会へ報告することが目標とされました。結果、6回委員会が開催され、うち1回は国東市立志成学園及び豊後高田市立戴星学園において学校視察が行われ、11月13日には委員長が教育委員会に報告書を提出し、11月定例教育委員会においてその報告が行われました。先進地視察を通じて、委員の理解が深まり、多角的な視点から議論が深まるなど、目標以上の成果が得られているといえます。

B 幼児教育の充実

・幼稚園教育内容の充実

「架け橋期」は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期であり、各園・各校の架け橋期のカリキュラムが完成したことは、市の保幼小の連携にとって大変意義深い事柄といえます。令和7年度は、幼小の円滑な接続に向けて、架け橋期のカリキュラムの実践と検証を目標に活動がなされています。目標の達成に向けて、校長研修会の開催、幼小の円滑な接続のための相互参観・合同研修会の実施、校区幼保小連携協議会の設立がなされ、小1プロブレムの発生率も、令和6年度の3.7%から令和7年度は3.5%に減少するなど、着実に成果があがっているといえます。今後もカリキュラムの確実な実施とそれに伴う見直しを進めていただきたいと思います。

C 安心安全な学校施設の計画的整備促進

・安心安全な学校施設の計画的整備

令和3年3月に策定した中津市学校施設長寿命化計画の方針に則り、令和7年度においては、「学校施設の長寿命化改修、予防改修、校舎建替、体育館・屋外トイレの洋式化改修等を行う」こと、「省エネルギー化及び教育環境の向上を図るため、屋内運動場照明のLED化改修を継続して実施する」こと、「中津市学校施設長寿命化計画の1回目の見直しを行う」ことが目標

とされました。

令和7年度の事業について計画通り進んだ事業は、南部小学校長寿命化改修、大幡幼稚園舎改築(Ⅰ期)工事及び体育館・屋外トイレの洋式化改修でした。特に、トイレの洋式化改修が実施され、令和7年度末には洋式化率97.49%まで改修が進められたことは特筆に値します。三保小学校校舎改築(Ⅰ期)工事、小・中学校の校屋内運動場照明LED化改修については、国庫補助との関係で令和8年度に事業が繰り越しとなっていますが、計画外に、国の空調設備整備臨時特例交付金を活用し、中学校屋内運動場空調設備設置工事(旧市内6校分)が実施されるなど、積極的かつ計画的に学校施設の整備が進められていると言えます。

また、中津市学校施設長寿命化計画の1回目の見直しが行われており、今後も計画的な整備が求められます。

D 学校給食の充実

・安全・安心な給食提供のための環境整備及び地産地消の推進

学校給食は、幼児児童生徒の心身の健全な発達に資するものであり、食に関する正しい理解と適切な判断力を養う場として教育課程上重要な位置を占めています。令和10年2学期からの供用開始予定の、市内の4つの共同調理場を再編した新調理場では、「学校給食衛生管理基準」に対応した安全・安心な学校給食の提供が見込まれています。

令和7年度は、新共同調理場整備運営事業者決定を行うとともに、新共同調理場における食物アレルギー対応の実施方針検討を行うこと、JAや漁協、市の関係各課等と連携を密にして地場産野菜等の品目と使用量の拡大を図ること、新たな生産者組織や後継者の育成等を関係機関と協議すること、なかつ6次産業推奨品の活用に向け協議を行うことが目標として挙げられています。これに基づき、事業者選定委員会が開催され、事業者が適切に決定されました。

食物アレルギーの実施方針については、6品目を対象に行うことになり、次年度マニュアル作成を行うことになり、新たな生産者の確保に向けても、JAのみならず、農家と直接交渉が行われ、なかつ6次産業推奨品の活用に向けても、市関係部局と現場の栄養士と協議が行われ、しいたけ粉や粉末緑茶、おいしいこめみそを学校給食に活用されるなど、おおむね目標以上の成果があがっているといえます。

2. 学びたい教育のまちづくり(生涯学習・産業教育の推進)

A 生涯学習の推進

・生涯学習推進基盤の整備及び公民館、コミュニティーセンターの利用促進

公民館、コミュニティーセンターの利用者数は、令和5年度比で58,661人増、また、中津市生涯学習センター事業の利用者は令和5年度比で1,560人増となっています。コロナ禍のなかで利用を控えていた高齢者の方々を中心に市民の皆さんが戻りつつあることがうかがえます。そこで、令和7年度は、公民館、コミュニティーセンターの利用促進、自主サークル活動の育成、公民館、コミュニティーセンター等、社会教育施設の整備を目標として設定されています。社会教育主事が各公民館を巡回し、利用者増加に向けて講座生や館長と対策を練ったり、住民ニーズの把握と新規学習内容の開拓による魅力ある学習内容の提供と利用の啓発が行われたり、サークルの活動、募集の支援及び新規サークルの立ち上げ支援、老朽化した公民館の設備等の改修も行われ、利用実績も年間で4,911人増加、小学生ダンスやフラダンスなど

若い世代の自主サークル立ち上げがみられるようになり、老朽化した公民館の改修も計画的に進められています。概ね計画的に事業は推進されているといえましょう。

・学習機会の拡充と学習効果の活用

感染症等の影響で、参加者が減っているなかで、学習機会の拡充、個性や能力を発揮することができる環境づくり、地域での学校との協働活動などを進め、今後は学んだ成果を自分の生活や地域づくりに活かしていくことが期待されています。

そこで令和7年度は、「『学びの里なかつ推進宣言条例』に即した生涯学習の推進」、「学びを活かし社会に貢献できる人材の育成」、「『学びの里なかつ推進宣言条例』に即した『ふるさと学習』の推進」を目標に設定しています。

令和6年9月に制定された「学びの里なかつ推進宣言条例」では、「中津市の「学び」の土壌を豊かにし、学ぶ意思のある者が育まれ、集い、交流することで、『新たな学び』や『誰もが輝く学び』が生まれ、もって、未来に向けてひととまちがともに発展していく『学びの里なかつ』を推進していくこと」が宣言されており、その実現に向けて、生涯学習の生徒やサークル生が、学校支援や放課後子ども教室の講師として児童の健全育成に寄与したり、福沢諭吉記念事業、子ども中津検定・ジュニア諭吉検定、ワンパク！たんけん中津、青少年地域活動事業、八面山スケッチ大会・美術展、公民館独自講座等を実施するなど、体験活動を重視した「ふるさと学習」が実施されています。今後も、ふるさと学習の一層の充実をはかっていただき、ふるさとに愛着をもち、そのよさを発信できる人材の育成に努めていただきたいと思います。

・新中津市学校の活用

新中津市学校は、そのコンセプトである「学生や社会人が学習・交流に集う場」「慶應義塾との共同研究・連携事業をすすめる場」「中津市学校を精神を受け継ぎ人材育成につなげる場」として市内の文教施設の中心的役割を果たしています。

令和7年度も「市民講座の開催」と「慶應義塾との共同研究の推進」、「歴史資料の保存活用・公開」が目標として挙げられています。目標に基づき、慶應義塾等より講師を招聘した市民講座(全2回)が開催され、慶應義塾大学との共同研究として、「小幡篤次郎関係資料」「小幡著作」「渡辺家資料」の整理が行われています。修繕が終了した小幡蔵書は、なかはく「小幡篤次郎展」にて公開展示がなされています。ただ、利用実績は9.181人で前年比約2割強の減少でした。

今後とも慶應義塾との共同研究を進め、それを広く市民に還元するとともに、学習交流施設として、広く市民の学びの交流を促進する場として機能強化に努めていただきたいと思います。

B 教育の協働の推進

・協育による中津の子ども未来創造事業の充実

青少年の健全育成において、学校、家庭、地域住民の総参加で子育てを進める、教育の協働体制づくりが積極的に進められています。

令和7年度は、「コミュニティー・スクール導入校における効果的なネットワーク会議との連携促進」、「感染症予防対策をとりながら、地域と学校の協働により、学校内外での子どもの育成を推進」ならびに「中津市PTA連合会と連携し『家庭教育ノススメ』を重要な目標の一つに位置付け、よりよい親子関係が築けるようにする」ことが目標として掲げられています。目標

に向けて、館長会議にて、CS(コミュニティ・スクール)確立に向けた地域学校協働活動の研修が毎月実施され、CS導入による、校区ネットワークとの連携が課題として挙げられ、放課後子ども教室の充実へ向け、各校区のコーディネーターを伴走支援したり、市PTA連合会と連携し、「ホメタイガー」等を活用し「ほめて、認めて、はげます」コミュニケーション運動が推進されました。

今後も学校運営協議会と校区ネットワーク会議の効果的な連携のしくみのもとで、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒の課題の解決に向けて協働を図っていただきたいと思います。

C 生涯学習センター「まなびん館」の充実

・生涯学習センター事業の推進

生涯学習センターは、「いつでも、だれでも、いつからでも」学ぶことができる市民の生涯学習の拠点であり、令和7年度は「生涯学習を推進し、学ぶ意欲を持った市民に対して、個々の学びが自分の生きがいにつながるような施設づくりをすすめる」こと、「学びから遠ざかっている市民、学ぶ場を知らない市民に対しては、積極的に情報発信を行い、学びを再開、スタートさせるきっかけをつくり、市民の学びを後押しする」ことの2つの目標のもとで、「まなびん講座」の新規開設やサークル活動等を通じ、生涯学習センターの利用促進を推進するとともに、センターだよりやSNSを効果的に活用し、日頃の取り組みについて広く発信に努めています。また、「まなびんフェスタ」と「生涯学習大学大学祭」を合同開催し、若年層と高齢者層の相互の学び・交流を促しました。利用者数は、前年度並みですが、今後も引き続きセンターの活動の魅力化に努めていただきたいと思います。

D 産業教育の推進

・体験学習・遠隔講座等を通じた未来を広げるキャリア教育の推進

令和7年度は「職場訪問・職場体験の充実」、「オンライン講座等を通じた未来を広げるキャリア教育の推進」そして「ICTを活用したキャリア教育の充実」という目標の下で、令和7年度は、中学校を対象とした職場体験は全10校で実施され、職場訪問も6校で実施されました。また、小学校対象のダイハツ工場見学も19校で実施され、工科短大と商工会議所と連携した「ものづくり体験出前授業」も9校で実施されています。さらに、令和6年度は急遽中止となった市内全中学校でSOEM(中津市中学校生徒会意見交換会【オンライン】)が実施され、各学校の生徒会が特色ある取組や意見交換を行われました。

今後も、自立した生徒の育成に向けた教育活動を進めていただきたいと思います。

・多様な体験の活用

働くことに対する関心や意欲が乏しい若者の増加が社会問題となっています。子どもたちが将来の夢や希望を抱き、望ましい勤労観、職業観を身につけ、自己実現を図るために、ものづくり体験や郷土の産業に触れる活動などを学校教育以外で推進することは非常に望ましいことといえます。

令和7年度は「子どもたちが、勤労の尊さや生産の喜びを体得し、自分の将来を考える時に選択の幅が広がるような学校以外での多様な体験の場の提供」を目標として、「職人フェスティバル」では、伴走支援が実施され、ドローンやペッパーくんなどの先端技術や小幡英之助

や田原淳などの中津の医学者を取り上げたブースが展開されています。前年比で参加者が減少しているのは非常に残念であり、周知方法や内容の改善が求められます。

中津少年少女発明クラブも、身近なものから創作する楽しさや科学の不思議さを学ぶ講座を通じて、子ども自身が抱いた疑問に仮説を立て、検証していく過程を実感し、ものづくりの体験と郷土の産業に触れる場として貴重な場となっているといえます。特に今回は、第83回大分県発明工夫展でクラブ員の3人が「会長奨励賞」・「大分合同新聞社賞」・「県会長賞」を受賞しており、子ども自身の達成感や自己実現につながったのではないかと思います。また、「ワンパク！たんけん中津」にて、飯盒炊爨や手作り花火の体験学習が実施されています。

今後も、子どもたちが将来の夢や希望を抱き、豊かな自己実現を図るために、望ましい勤労観、職業観を身につけるためのものづくり体験や郷土の産業に触れる活動の充実化を図っていただきたいと思います。

E 図書館の充実

・図書館機能の充実

令和7年度の目標は「安心して来館できる環境づくり」、「市民ニーズに沿った図書館運営と利用率の向上」、「社会教育課などと連携し、近隣文化施設との導線づくりを図る。」を目標として挙げられています。

小幡記念図書館は老朽化が課題として指摘されてきましたが、令和7年度は、空調設備の更新や研修室の舞台機構等の施設の修繕が実施されるなど、利用者の安全性や快適性が確保されたことは評価される点です。昨年度に続き、DX化にも努め、利用者の利便性の向上をはかっています。ソフト面では、子ども司書が主体となって企画するイベント(子ども読書サミット)の開催により、人気絵本作家によるライブペイントを実施し、新たな来館者の獲得を図ろうとしています。中津市歴史博物館や木村記念美術館の特別展示のテーマに関連した図書を展示し、施設の相互利用や読書の推進が図られています。エントランス壁面をアールスペースとして美術館に提供していますが、来館者の心を和ませる空間になっているように思います。

今後も地域住民の情報拠点として、小幡記念図書館と4つの分館、移動図書館が協力して、市民が図書館を訪れたいくなるような企画や取組みが拡充されることを期待します。

・読書活動の充実

スマートフォンの普及や SNS等コミュニケーションツールの多様化等、情報環境が大きな変化を見せており、結果「読書離れ」や「活字離れ」が進んでいると言われます。しかしネットの情報は不正確なことも多く、本から情報を得ることの大切さを市民に広く認識していただきたいと思います。

令和7年度は、「家庭や地域、図書館における子ども読書活動の推進」、「学校図書館やボランティアグループなどとの連携による読書活動の推進」、「イベント等を通して本の魅力、読書の楽しさを伝える」、「ホームページのリニューアル等により図書館の取組みの積極的かつ効果的な情報発信をおこなう」ことを目標として挙げられています。

幼児向けおはなし会のうち、日曜おはなし会の割合を増加することにより、平日に参加できない方にも読み聞かせの機会を提供し、読書活動を推進し、学校司書と合同で、児童サービス分野の専門家を講師に迎え研修会を実施したり、初任者研修を行ったことにより、学校図書館との連携を深めたり、第3次計画に基づき年度ごとの目標に対する実績を把握することに

より、読書活動の推進に効向けての効果的な取組みができるようになったことは評価されます。結果的に、おはなしの会の参加者が50人近く増加し、団体貸し出し冊数も前年比1000冊超、春秋の読書週間における譲渡冊数も前年比2000冊超と施策の効果の表れといえましょう。

3. 学びたい教育のまちづくり(文化・スポーツの推進)

A. スポーツの振興

・生涯スポーツの推進

少子高齢化のなかで、スポーツを身近に楽しむ環境が少なくなっています。市民に様々なスポーツの機会を提供することは非常に重要です。その点で、5月の最終水曜日の「健康づくりの日」の施設開放は、幅広い市民にスポーツ参加のきっかけ作りにつながる取組みとして注目されます。

令和7年度は、慶應義塾大学体育会野球部に加え、今年は東京医療保健大学女子バスケットボール部も中津市での合宿の受け入れを行っています。慶應義塾大学野球部の合宿においては、期間中に地元小中学生対象の野球教室や九州共立大学、日産自動車九州との交流試合も行われました。

今後も、多様なイベント開催を通じて、より幅広い市民にスポーツに触れる機会を設けていただくとともに、総合型地域スポーツクラブの創設に向けて取り組んでいただきたいと思います。

・競技力向上及びジュニアの育成

競技力の向上及び優秀な選手やジュニアの育成のために、優れた指導者の確保や育成が必要であり、全ての競技団体に「公認スポーツ指導者」や「スタートコーチ」、「スポーツコーチングリーダー」等の資格取得を支援・推進していくことが必要とされています。

そこで、令和7年度は、「市スポーツ協会や競技団体、学校、地域、企業などが連携し、人材の育成・強化に努める」ことが目標とされています。スポーツ少年団の説明会において、指導者資格の説明を行い、制度への理解と資格取得、更新の手続き等を促しています。また10月には「地域内指導者スタッフ研修会」を行い、子どもたちにとってより良いスポーツ環境を提供できるよう啓発を行いました。

今後も指導者や保護者、関係者向けの研修の場の充実に努めていただきたいと思います。

・市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用

誰もが、どこでも、安全に、安心してスポーツに親しむことのできる環境づくりを実現するうえで、施設の整備は重要です。

令和7年度は、「市民のスポーツニーズに対応した施設の整備を行うことで、施設利用満足度を高める」と、「多機能多目的な施設利用に柔軟に対応し、利便性の向上を図る」ことを目標に、三光運動公園のサブグラウンド内にあるトイレの洋式化工事やダイハツ九州スタジアムの鉄柱塗装工事が実施されています。このほかにも利用者ニーズを踏まえ、施設整備や施設の利便性向上のための改修や修繕が実施されています。

今後も、利用者のニーズに応えるような施設整備を計画的に進めていただきたいと思います。

B. 文化・芸術活動の推進

・文化施設の充実

施設の老朽化が進行する中、市民が安全かつ快適に文化活動が行えるように、優先順位を決めて必要な整備が実施されています。

令和7年度は、「市民生活の質を高め、楽しめる文化的環境づくりを推進」すること、「文化芸術活動の場としての施設の整備・充実に努める」ことが目標とされ、中津文化会館については、空調機器修繕、音響設備修繕、屋外床タイル修繕、排煙設備修繕、排水設備修繕など、必要な設備修繕を行い、幅広い年齢の利用者が安心して快適に利用できるよう整備がなされました。中津文化会館は建設後45年が経過しており、将来的な方針(建て替え・長寿命化)決定に向けた議論を進めているとのことですが、木村記念美術館も老朽箇所が目立っており検討が必要と思われます。

・文化芸術活動の推進

市民ニーズを反映した文化芸術の取り組みを進めるという方針のもとに、文化会館、リル・ドリームについては、指定管理者が中心となり、文化芸術団体と連携を深め、市民が文化芸術に触れ体験する機会が創出されています。これまで、利用者数が増加(コロナ禍の減少から回復)していたのですが、令和7年度は、文化会館が前年比で減少したものの、リル・ドリームでは引き続き増加しています。木村記念美術館については、中津市歴史博物館や美術団体との連携により美術展が開催されるなど、事業の充実強化が図られています。

次世代の育成や地域の伝統継承者の確保等のため、若年層をターゲットにしたイベントの開催などの取り組みも行われているとのことですが、来年度以降も、次世代の育成を見据えつつ、利用者のニーズに応じた活動が展開され、市の文化芸術活動の中核施設として文化芸術活動を強力に推進していただきたいと思います。

C. 歴史と文化の伝承

・文化財調査の充実と保護の促進

令和7年度は、県指定史跡長岩城の初めての発掘調査をおこなうなど総合調査がすすめられ、調査の成果報告などについてシンポジウムが開催されました。想定を大きく上回る市民の参加がありました。この他にも文化財調査・研究が進められ、その成果をもとに、調査・研究の成果を活かした企画展等が多数実施されました。図録や調査報告書等も13冊に及びます。また市内外の学校と連携し、中津の文化財を描いた作品展や「とうろう展」が実施されるとともに、博物館見学、体験講座、修学旅行、職場体験等の受け入れや出前授業等が行われています。文化財の実物に実際に触れたり、発掘や保管、展示に携わる専門家のお話を聞く体験は、児童生徒の学校での学びを深めたり、彼らの郷土愛を育成することにつながっています。「中津市文化財保存活用地域計画」については記載されている課題に着実に取り組まれています。

是非、今後も、学校教育との連携等を活用して博物館活動、史跡整備等の機会を増やしていき、市民の間に文化財保護精神の醸成をはかっていただきたいと思います。

・文化財整備・活用の推進

令和7年度には、福沢諭吉旧居の修復・保存のため、「福沢諭吉旧居基本整備計画」の令和8

年度策定を目指し、建造物の調査等が実施されました。長者屋敷官衙遺跡については、トイレや駐車場のための用地を取得し、「古代ゾーン」の拠点としての整備が進められています。また、周辺調査についても継続実施されています。長岩城シンポジウムが開催され、調査報告を市民に公開しました。慶應義塾大学と連携した特別展を開催し、企画展示に関連したギャラリートーク、ワークショップ、記念講演、市民講座の開催など、これまでの共同研究の成果を活かした企画が多数実施されています。これらのイベントは、SNSやメディアを通じて情報発信され、来館者の増加につながっています。

文化財に親しむ機会の創出が積極的になされ、文化財を中津市のブランド力アップにつなげようとする取組みも効果をあげているといえましょう。

・博物館を核とした中津市の魅力発信

市指定40周年記念「御水道展」、小幡篤次郎の業績を多角的に紹介した「知徳の人・小幡篤次郎」展、福澤門下生として慶應義塾に学んだ高橋誠一郎の浮世絵コレクションを紹介した「高橋誠一郎と浮世絵」展、「国立印刷局工芸展」など、バラエティーに富んだ企画展示が実施されています。加えて、企画展に関連したギャラリートーク、ワークショップ、講演会、イベントの開催なども多数実施されるなど、発掘や調査の成果が積極的に発信されています。

また、学校教育課と連携し、社会見学やまちなみ歴史探検等の博物館の見学、出前授業、体験学習、職場体験等の受け入れが行われており、学校の教育課程の一環のなかで、郷土の魅力を児童生徒が実感する機会が積極的に設けられていることは素晴らしいことです。令和3年より続く三津同盟も非常に興味深い取組みですが、今年度も令和8年度の締結5周年記念行事に向け、3市町で交流・調整が行われました。さらに、博物館において市民主催の事業を開催したり、美術館では「よしながこうたく絵本原画展」が開催され、子ども司書研修を受講した小学生が絵本の読み聞かせを行ったり、また、武田由平をテーマとした企画展を開催し、市民団体と連携してカフェや郵便局等市内46か所で武田由平の作品を展示するまちなかアートプロジェクトや主要展示会場を巡る「名建築と版画をめぐるバスツアー」を実施するなど、市民グループと連携した企画展が開催されました。まさに民間が運営に参加する「参加型なかはく」を通じた魅力の発見や発信につながっているといえるでしょう。

4. 学びたい教育のまちづくり(教育委員会活動の充実)

A. 教育委員会活動の充実

・教育委員会の機能強化

総合教育会議においては、①学校部活動の地域展開について、②いじめ問題・不登校における中津市の取組みについて、③中津市立学校・園の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について協議・情報共有が行われました。教育委員会が市長と緊密な連携をとり、地域住民の意向を反映した教育行政の推進が図られています。

また、教育委員及び教育長、教育部長が小・中学校及び幼稚園を訪問し、現状や各校が抱える課題を教育委員会として把握する取り組みがなされています。教育委員会は、市長と連携しつつ、教育現場の課題をしっかりと把握、共有し、教育行政に対する責任を果たしているといえます。

各施策の評価を踏まえて、総合知見を述べたいと思います。

令和6年度は、多くの事業がさらに充実していくなかで、市民の学習意欲や活動はコロナ禍前を超えつつあり、令和7年度は、計画的に事業をさらに拡充する段階に入ったといえます。

そうした中で課題として挙げられるのは、学校教育の状況です。児童生徒の学力・学習の状況についてみると、全国学力学習状況調査において合計正答率が全国平均以上の学校数として「小学校15校以上」「中学校6校以上」を目指すという目標に対して、それを達成している学校が小学校は13校、中学校は2校であり、小学校は令和6年度よりも増加したものの、目標の達成には至りませんでした。この背景には、いまだ、基礎的・基本的な知識・技能の定着が十分になされていないことが挙げられます。

今後、学力の底上げをはかる上で、3つの取組みが注目されます。一つ目は、市内の小中学校で取り組まれている「みんな活躍授業」です。教師が提示したキーワードをもとに授業の「課題」を全員がつかみ、「学び合い」の場面では、全員が考えを表現し、「まとめ」もみんなで導き出すなど、児童生徒全員の授業への主体的参加を促している注目すべき取組みといえます。この実践をすべての学校に広げ、子どもたちの学習に対する関心意欲を高めていくことは、学力の底上げにとって非常に重要であると考えます。二つ目は、授業におけるICTの積極的活用です。現状では、授業で端末を児童生徒に活用させている頻度について「ほぼ毎日」と回答した学校の割合が令和5年の30.3%から令和6年の61.6%に向上しています。教科に応じてiPadを活用したり、AIドリル等も活用するなど、ICTを活用して基礎基本の習熟定着を図る実践がこれまで以上に学校で組織的に行われることが学力の向上につながると考えます。三つ目は、地域の方のご支援です。中津市では多くの地域の方がそれぞれの専門性を活かして、学習サポーターとして学習支援に参画されています。こうした地域の皆様のご支援も、児童生徒の学力向上に確実に資するものと考えます。

次に課題として挙げられるのが、施設・設備における安全・安心の確保です。学校施設については「学校施設長寿命化計画」にもとづき、改修が着実に進められています。また、学校給食については、令和10年2学期からの新調理場供用開始に向けて、方針の決定や事業者の決定、関係者との協議が順調に進められています。一方で、生涯学習に関連した公民館、コミュニティセンター、芸術文化施設やスポーツ関連施設についても、築年数がかなり古い施設・設備が多いですが、修繕や改修が計画的に進められています。

このように中津市では、施設・設備については計画的に修繕や改修、建て替えが進んでいますが、今後も市民が安心・安全に学びを深め、スポーツに親しむことのできる環境づくりに邁進していただきたいと思います。具体的には、老朽化の進む施設・設備における安全点検等の強化に努めていただくことで、思いがけない事故の防止に努めていただきたいと思います。また、激甚化する自然災害を見越した施設設備の整備も、学校や公民館、コミュニティセンターなどで進めていただきたいと思います。さらに、バリアフリー化やDX化など、利用者に寄り添った施設整備を進めていただきたいと思います。たとえば、コロナ禍を経て、生涯学習を再開された方のなかには高齢者も多くいらっしゃいます。施設設備面で高齢者や障がいのある方々が学び、活動しやすい環境づくりに努めていただきたいと思います。

生涯学習や文化・芸術活動・スポーツの推進については、「三津同盟」などを核にした様々な企画が、学校教育と連携もしつつ展開され、地域の魅力を発信し、市民の学習活動を支援して

いることに非常に魅力を感じました。また、博物館と美術館、図書館が連携して、コラボ企画を実施し、参加者の学びを深めていこうとされている取組みも素晴らしいと感じました。また、慶應義塾大学との共同研究や特別展の開催、野球部合宿の受入れなど、福澤諭吉先生が創設された慶應義塾大学との協働は、市の生涯学習や文化・芸術活動・スポーツ推進の重要な柱となっており、今後ともその関係の拡充に努めていただきたいと思います。各施設が有する資源を活用して、市民の文化・芸術・スポーツ活動の支援や、郷土に対する愛情を高める機会につなげていただきたいと思います。

教育委員会活動の充実については、総合教育会議において市長と教育委員が緊密な連携をとり情報共有が行われています。今後とも、教育委員会におかれましては、学校や幼稚園の訪問などを通して教育現場の課題を把握・共有し、教育行政に対する責任をしっかりと果たしていただきたいと思います。

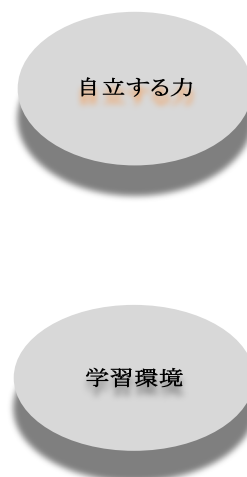
IV おわりに

『中津市教育振興基本計画』においては、計画期間を通じて目指すべき教育の姿、基本構想として、次の目標を掲げています。

- 「安心づくり」「元気づくり」「未来づくり」を基本として
- ・ 自立する力を育て、社会で活躍できる人材の育成
 - ・ いつでも どこでも 学べる環境づくり

これら目標の実現に向けては、さらに以下の(1)から(4)の4項目の達成を図らなければなりません。

- (1)義務教育修了までに、責任ある社会の一員として自立していくための基礎となる、知、徳、体、食にコミュニケーションを加えたバランスのとれた力を育てます。
- (2)学校、家庭及び地域住民その他の関係者が、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を図れる体制づくりを確立します。
- (3)誰もが生涯にわたり学ぶことができる環境を整備し、文化芸術活動やスポーツに親しむ機会を充実させます。
- (4)地域固有の文化・芸能の継承と保存整備に取り組みます。



令和7年度においては、4項目を施策別基本目標、25項目を具体的な施策として取り組んでいましたが、全体目標の達成に向けて効果的かつ着実に推進するためには、事業の点検とその結果のフィードバックが不可欠であり、今回の施策評価の過程においても、多くの課題が浮き彫りになりました。そのため、実施した施策について、計画(Plan)→実行(Do)→評価(Check)→改善(Action)のPDCAサイクルにより適応性や目標達成度、有効性の観点から自己点検・評価を行い、これを市民に公表し、市民の意見等の把握・反映に努め、次年度以降の進行管理を行っていきます。

